

---

**日立ダイアグモニタHDM-8000**  
**取扱説明書**  
**「車両登録(選択)せずに故障診断を行う方法」**  
**及び**  
**「データ移動方法」**

2016年7月22日版

日立ダイアグモニタHDM-8000の故障診断アプリは、下記の操作手順で使用出来ます。

## 1. 車両登録(選択)せずに故障診断を行う方法

(1) 車両登録(QRコードの読み取り)又は車両選択をせずに故障診断アプリを起動したい時は以下資料を参照下さい。

(2) その他アプリケーションから「故障診断」アプリを起動する方法

## 2. 車両登録(選択)後に故障診断を行う場合

ルートメニューの「故障診断」をタップして、故障診断アプリを起動して下さい。

# 1. 故障診断機としてHDM-8000を使用する場合

## 手順1. 「車両情報」の確認

「車両一覧」の「車両情報」が空欄になっていれば手順3へ進みます。  
車両情報が表示されている場合は、手順2に進みます。



# 1. 故障診断機としてHDM-8000を使用する場合

## 手順2. 「車両情報」のリセット

もし、「車両情報」に何らかの車両情報が表示されている場合は、画面左下の「戻る」ボタンをタップして、車両情報を消去して下さい。



# 1. 故障診断機としてHDM-8000を使用する場合

## 【補足】「車両情報」の表示について



# 1. 故障診断機としてHDM-8000を使用する場合

## 手順3. 「故障診断」の実行

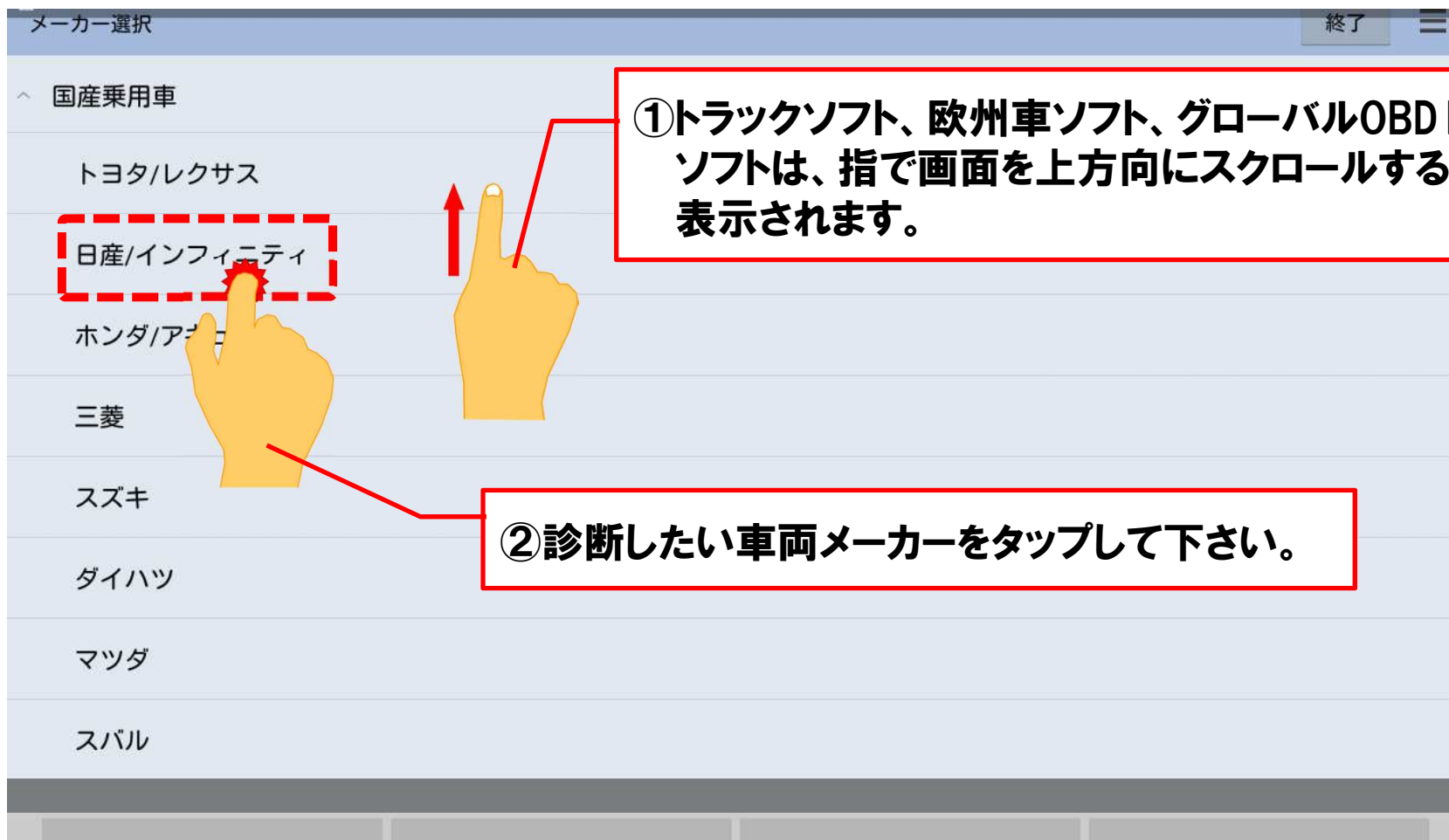
「車両一覧」の画面上部に表示されている「故障診断」をタップして下さい。次に「接続中...しばらくお待ちください」と表示されます。



# 1. 故障診断機としてHDM-8000を使用する場合

## 手順4. 診断ソフトの選択

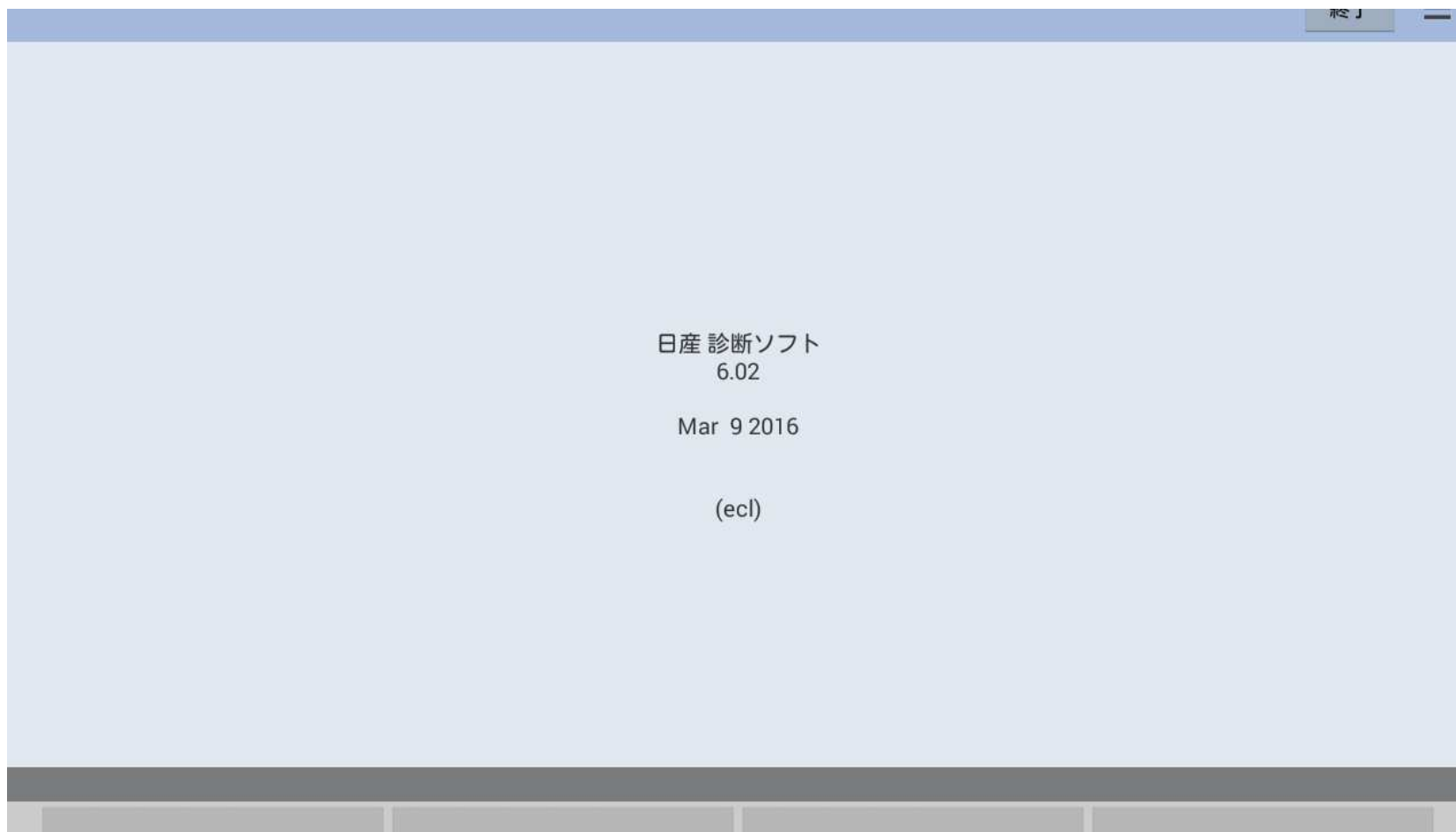
「メーカー選択」が表示されます。診断したい車両メーカーをタップして下さい。



# 1. 故障診断機としてHDM-8000を使用する場合

## 手順5. 診断ソフトの起動

「メーカー選択」で選択した診断ソフトが起動します。画面の表示に従って、診断ソフトを操作して下さい。





# 1. 故障診断機としてHDM-8000を使用する場合

## 手順6. 「故障診断」の終了

現在、使用中の診断ソフトを終了させたい場合は、画面右上に表示されている「終了」をタップして下さい。

The screenshot shows a diagnostic software interface with a table of engine parameters. At the top right, there are buttons for '戻る' (Back) and '終了' (End), with a hand icon pointing to '終了'. A red box highlights these buttons, and a red arrow points to a callout box. The callout box contains two buttons: '戻る' and '終了', followed by two bullet points explaining their functions. At the bottom of the screen, there are four buttons: 'グラフ' (Graph), '保存' (Save), '選択' (Select), and 'ホールド' (Hold).

項目	値	単位	最小値	平均値	最
□ エンジン回転数	738	RPM	738	46	50
□ スロットル開度	3.5	%	3.5	3.5	3.5
□ 吸入空気量	3.26	g/s			
□ 点火時期 #1	9.00	°			
□ エンジン水温	68	°C			
□ 車速	0	km/h			
□ 負荷計算値	28.6	%			
□ MIL	OFF				
□ ダイアグコード数	0				
□ 失火モニタ	COMPLETE				
□ 燃料系モニタ	COMPLETE				
□ 構成部品モニタ	COMPLETE				

戻る 終了

戻る 終了

- 「戻る」をタップすると前の画面(機能選択メニュー等)に戻ります。
- 「終了」をタップすると、現在実行中の診断ソフトを終了して、「車両一覧」(2ページ目)まで画面が戻ります。

グラフ 保存 選択 ホールド

## 2. データ保存

### 手順1. 「データ保存」の実行

「データモニタ」や「故障コードの表示」で表示されているデータを保存したい場合は、画面下部の「データ保存」をタップします。



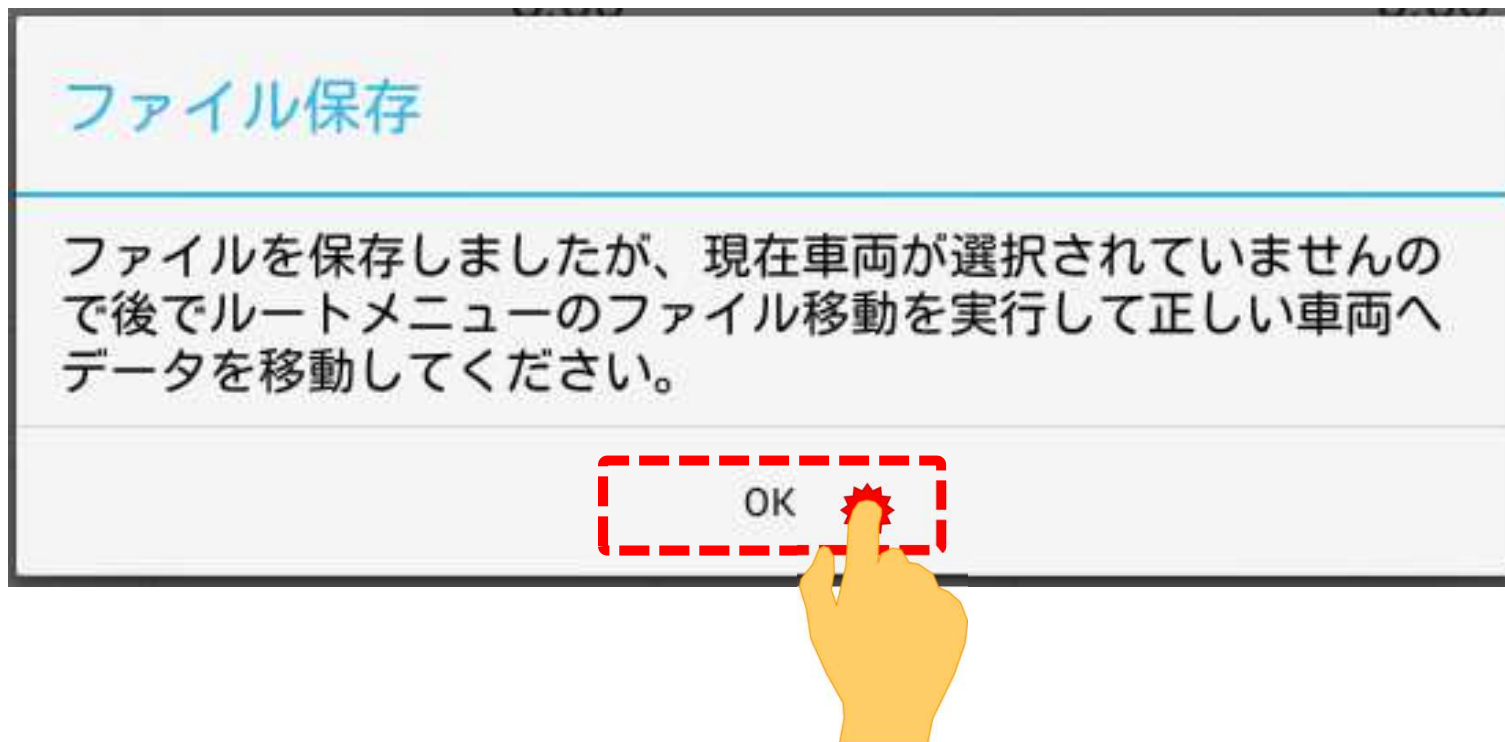
項目	値	単位	最小値	平均値	最大値
<input type="checkbox"/> エンジン回転数	738	RPM	738	746	750
<input type="checkbox"/> スロットル開度	3.5	%	3.5	3.5	3.5
<input type="checkbox"/> 吸入空気量	3.26	g/s	3.17	3.29	3.45
<input type="checkbox"/> 点火時期 #1	9.00	°	4.00	5.98	9.00
<input type="checkbox"/> エンジン水温	68	°C	68	68	68
<input type="checkbox"/> 車速	0	km/h	0	0	0
<input type="checkbox"/> 負荷計算値	28.6	%	27.8	28.2	29.0
<input type="checkbox"/> MIL	OFF				
<input type="checkbox"/> "ダイアグ"コード数	0		0	0	0
<input type="checkbox"/> 失火モニタ	COMPLETE				
<input type="checkbox"/> 燃料系モニタ	COMPLETE				
<input type="checkbox"/> 構成部品モニタ	COMPLETE				

Bottom navigation bar: グラフ, **保存**, 選択, ホールド

## 2. データ保存

### 手順2. 「ファイル保存」の表示

データが保存されると「ファイル保存」が表示されます。メッセージの下に表示されている「OK」をタップして下さい。データが保存されます。



#### 保存したデータを表示する方法

「車両情報」と保存データを関連付ける必要があります。詳細は手順4以降をご参照下さい。

## 2. データ保存

### 手順3. 「故障診断」の終了

現在、使用中の診断ソフトを終了したい場合は、画面右上に表示されている「終了」をタップして下さい。

The screenshot shows a diagnostic software interface with a table of engine parameters. The table has columns for '項目' (Item), '値' (Value), '単位' (Unit), '最小値' (Minimum Value), '平均値' (Average Value), and '最大値' (Maximum Value). The '戻る' (Back) and '終了' (End) buttons are highlighted in the top right corner. A callout box explains the function of these buttons.

項目	値	単位	最小値	平均値	最大値
□ エンジン回転数	738	RPM	738	46	50
□ スロットル開度	3.5	%	3.5	3.5	3.5
□ 吸入空気量	3.26	g/s			
□ 点火時期 #1	9.00	°			
□ エンジン水温	68	°C			
□ 車速	0	km/h			
□ 負荷計算値	28.6	%			
□ MIL	OFF				
□ ダイアグコード数	0				
□ 失火モニタ	COMPLETE				
□ 燃料系モニタ	COMPLETE				
□ 構成部品モニタ	COMPLETE				

**戻る**   **終了**   三

**戻る**   **終了**

「戻る」をタップすると前の画面(機能選択メニュー等)に戻ります。  
「終了」をタップすると、現在実行中の診断ソフトを終了して、「車両一覧」(2ページ目)まで画面が戻ります。

グラフ   保存   選択   ホールド

## 2. データ保存

### 手順4. 保存データの関連付け(データ移行)

HDM8000はタイムラインを実行することで、過去に保存したデータを再表示させて閲覧することが可能です。

車両情報と保存データと関連付け必要がございます。

詳細は次のページ以降の手順を参照下さい。

※車両情報の登録方法は自動車健康診断(HDM-8000)ホームページのドキュメントに掲載しております「健康診断シートの作成手順について」を参照下さい。

[http://www.hdm.hitachi-autoparts.co.jp/hdm\\_usr/html/index.php?PageKb=AllDownloadList&HDMSSID=id3u7isk6cpp7d0n16r0vlcb24](http://www.hdm.hitachi-autoparts.co.jp/hdm_usr/html/index.php?PageKb=AllDownloadList&HDMSSID=id3u7isk6cpp7d0n16r0vlcb24)

## 2. データ保存を行う場合

### 手順4-1 車両情報の選択/登録番号から

(1) HDM-8000アプリを起動し、「車両一覧」を表示させて下さい。



## 2. データ保存を行う場合

### 手順4-1 車両情報の選択/登録番号から (2) 車両情報の検索方法を「登録番号から検索」にして下さい。

① 検索方法の設定ボタンをタップして下さい。

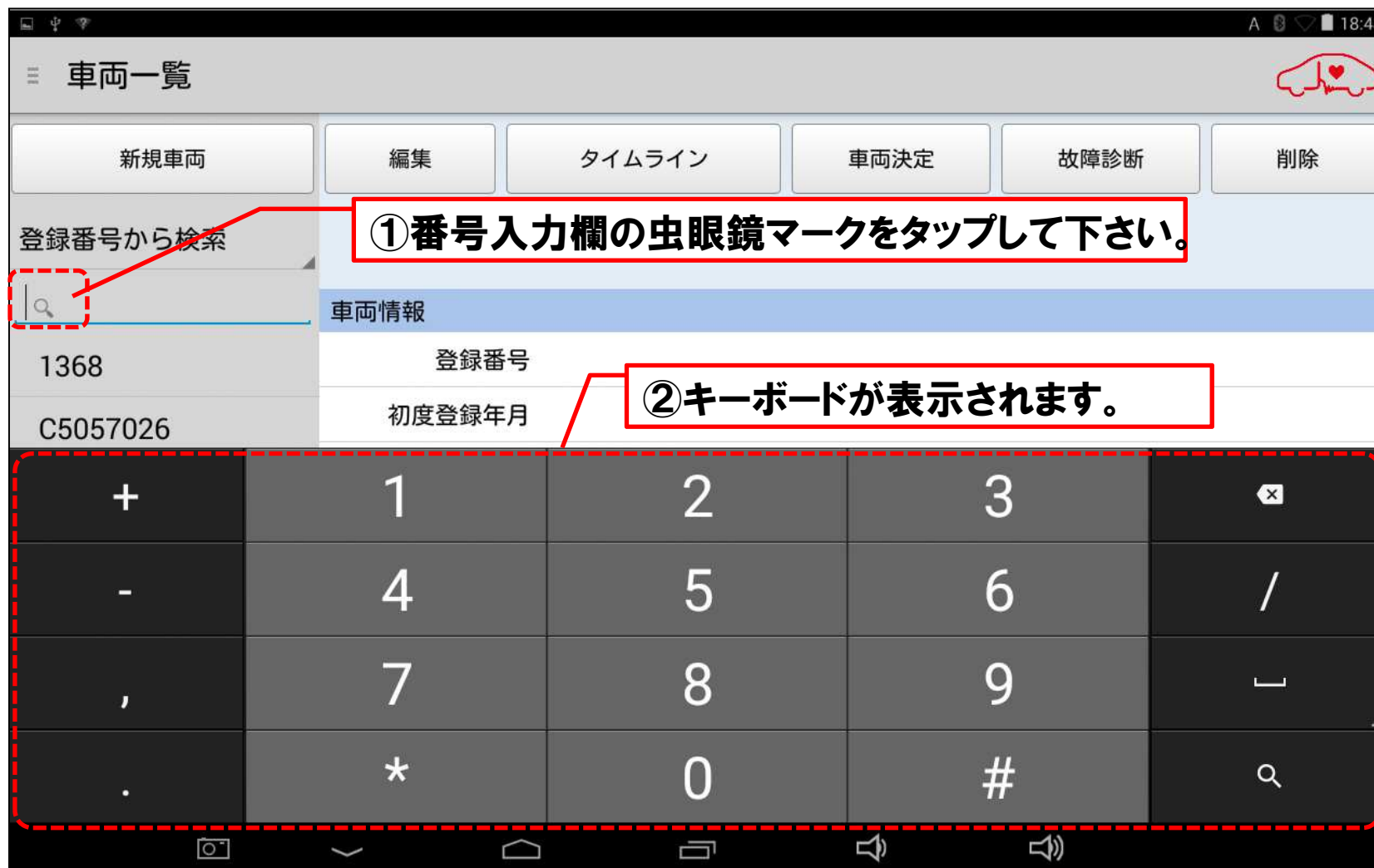
② 設定ボタンの下に選択肢が表示されます。「登録番号」から検索をタップして下さい。

登録番号	初度登録年月	メーカー	車種	車台番号	型式	原動機型式	燃料の種類	型式指定番号
横浜200あ151								
横浜200か1286								
横浜300わ5603								
横浜300わ5607								
横浜301の5163								
横浜480<1301								
横浜580は1240								
横浜800せ5312								

## 2. データ保存を行う場合

### 手順4-1 車両情報の選択/登録番号から

(2) 番号入力欄の虫眼鏡マークをタップし、キーボードを表示させます。

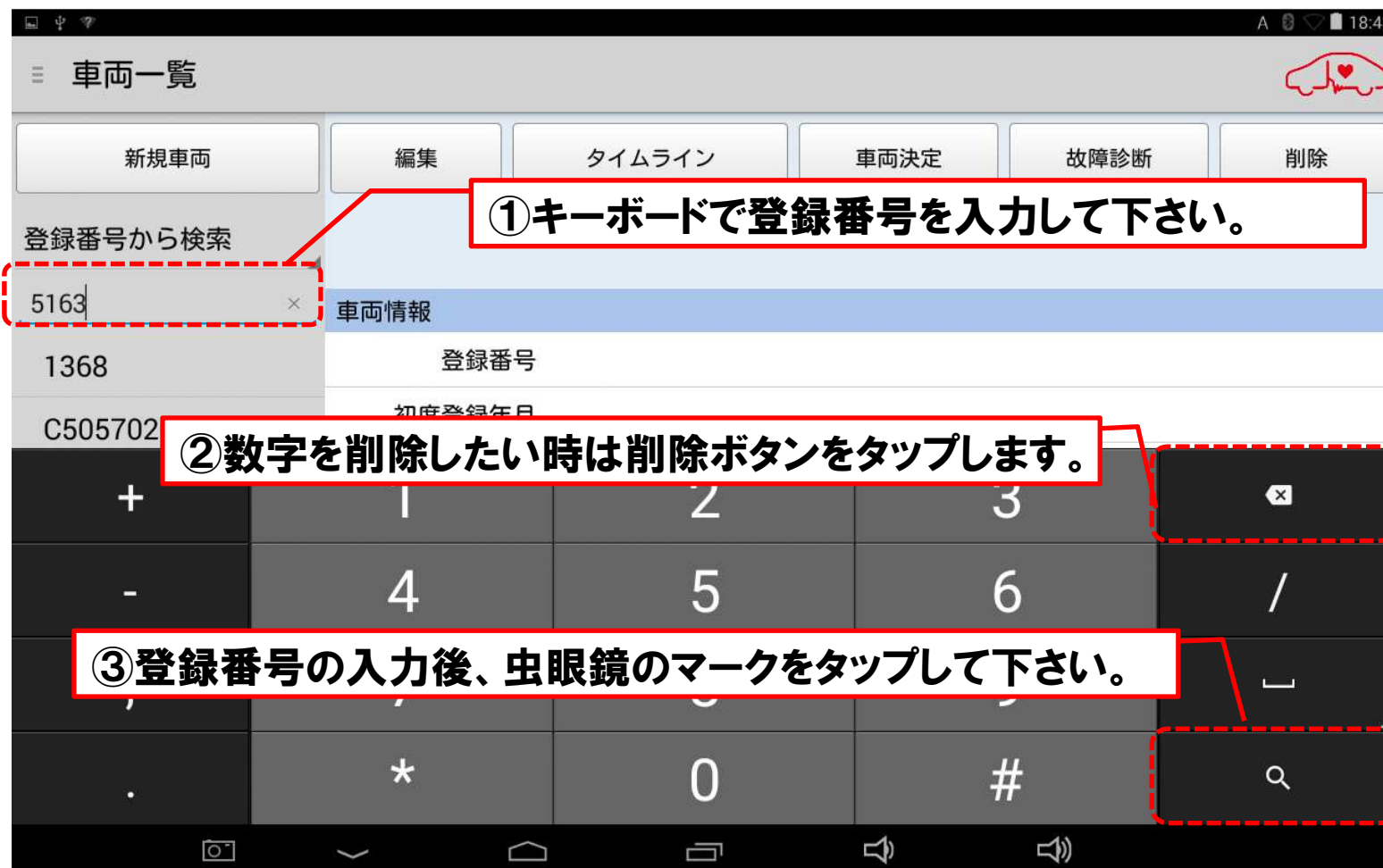




## 2. データ保存を行う場合

### 手順4-1 車両情報の選択/登録番号から

(3) キーボードで保存データを関連付けしたい「車両情報」の登録番号を入力し、最後にキーボードの虫眼鏡のマークをタップします。



## 2. データ保存を行う場合

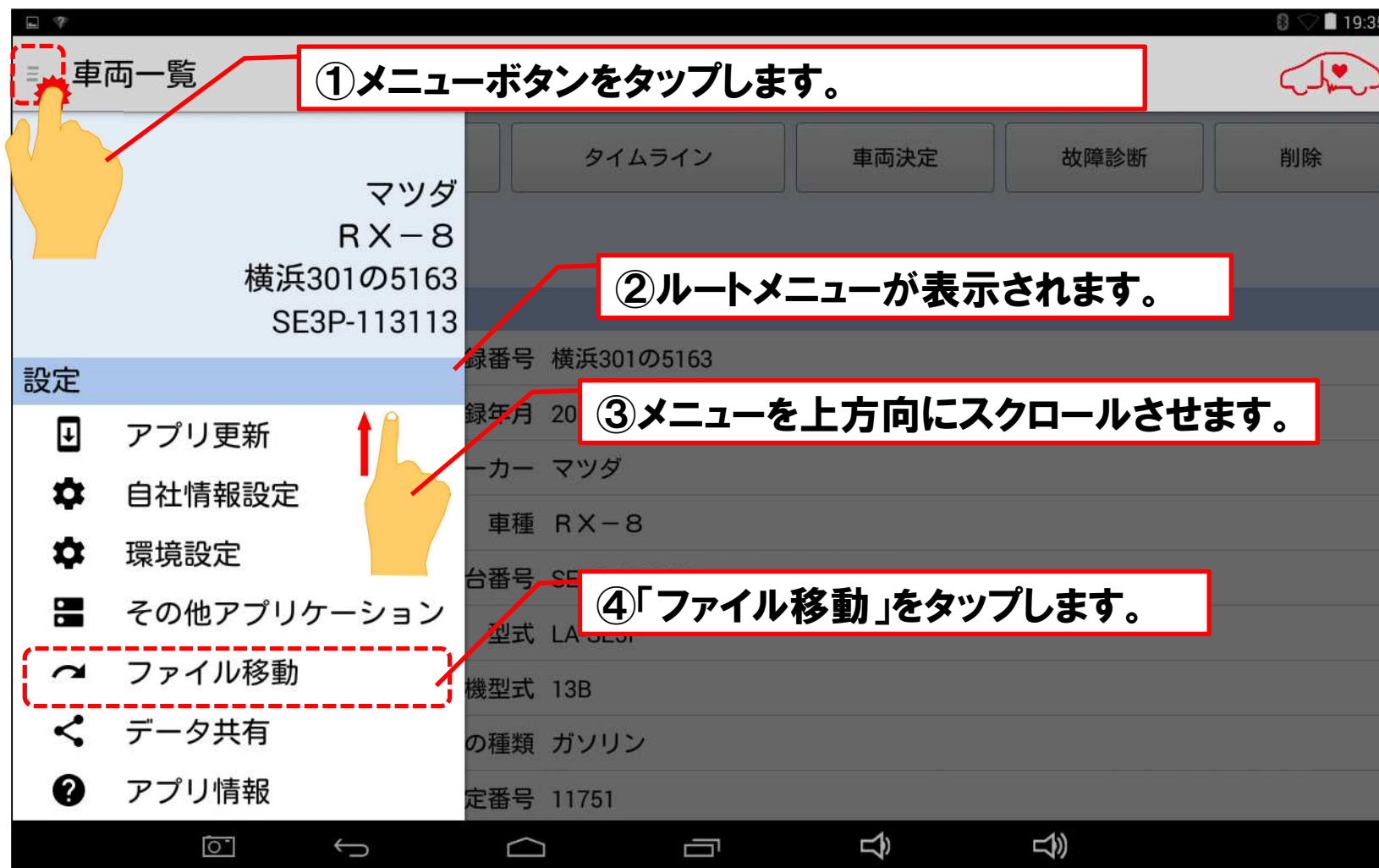
### 手順4-1 車両情報の選択/登録番号から

(3)画面左に該当する「車両情報」の登録番号が表示されます。登録番号を表示すると、「車両情報」が表示されます。



## 2. データ保存を行う場合

手順4-1 車両情報の選択/登録番号から  
(4) ルートメニューを表示させ、「ファイル移動」をタップして下さい。



## 2. データ保存を行う場合

### 手順4-1 車両情報の選択/登録番号から (4)「ファイル移動」画面が表示されます。

← ファイル移動 

選択車両反転	移動元車両選択	移動先車両選択	移動
移動元車両		移動先車両	
お客様名		お客様名	
登録番号		登録番号 横浜301の5163	
車台番号		車台番号 SE3P-113113	
移動元車両の診断ファイル一覧(車両未選択時)		移動元車両の写真一覧	
<input type="checkbox"/> 2016年06月18日 18:21:48 故障診断データ(DTC)		該当する写真がありません	
<input type="checkbox"/> 2016年06月18日 18:19:55 故障診断データ(DTC)			



## 2. データ保存を行う場合

手順4-1 車両情報の選択/登録番号から  
(5)画面右上の「移動先車両」を確認して下さい。

← ファイル移動

移動元車両	移動先車両
お客様名	お客様名
登録番号	登録番号 横浜301の5163
車台番号	車台番号 SE3P-113113
移動元車両の診断ファイル一覧(車両未選択時)	移動元車両の写真一覧
<input type="checkbox"/> 2016年06月18日 18:21:48 故障診断データ(DTC)	該当
<input type="checkbox"/> 2016年06月18日 18:19:55 故障診断データ(DTC)	

上の「移動先車両」に表示されている車両情報が13～17ページの手順で選択された車両です。選択間違いが無いか、確認して下さい。再選択を行う場合の手順は移動先車両をタップして、車両の再選択を行って下さい。

## 2. データ保存を行う場合

### 手順4-1 車両情報の選択/登録番号から

(6)画面左下の「移動元車両の診断ファイル一覧(車両未選択時)」に表示されているデータの内、「移動先車両」に関連付けしたいデータにチェックを入れて下さい。

移動元車両

移動元車両	移動先車両
お客様名	お客様名
登録番号	登録番号 横浜301の5163
車台番号	車台番号 SE3P-113113

移動元車両の診断ファイル一覧(車両未選択時)

移動元車両の診断ファイル一覧(車両未選択時)	移動元車両の写真一覧
<input checked="" type="checkbox"/> 2016年06月18日 18:21:48 故障診断データ(DTC)	該当する写真がありません
<input checked="" type="checkbox"/> 2016年06月18日 18:19:55 故障診断データ(DTC)	

「移動元車両の診断ファイル一覧」に表示されているデータの内、指でチェックが付けられた項目が、「移動先車両」に表示されている車両に関連付けされます。

## 2. データ保存を行う場合

手順4-1 車両情報の選択/登録番号から  
(7)データの選択が終了したら、画面右上の「移動」をタップします。



## 2. データ保存を行う場合

手順4-1 車両情報の選択/登録番号から  
(8)画面の下部に「ファイル移動を行いました」と表示され、保存  
データが「移動先車両」の車両情報に関連付けがされます。

移動元車両	移動先車両
お客様名	お客様名
登録番号	登録番号 横浜301の5163
車台番号	車台番号 SE3P-113113
移動元車両の診断ファイル一覧(車両未選択時)	移動元車両の写真一覧
該当するファイルがありません	該当する写真がありません

ファイル移動を行いました



## 2. データ保存を行う場合

### 手順4-1 車両情報の選択/登録番号から

(8)「ファイル移動」を終了し、「車両一覧」に戻る時は、画面左上の矢印から、画面下の「戻る」ボタンをタップして下さい。



### 3. データの再表示

## 手順1 車両情報の選択/登録番号から

(1) HDM-8000アプリを起動し、「車両一覧」を表示させて下さい。



### 3. データの再表示

## 手順1 車両情報の選択/登録番号から (2) 車両情報の検索方法を「登録番号から検索」にして下さい。

① 検索方法の設定ボタンをタップして下さい。

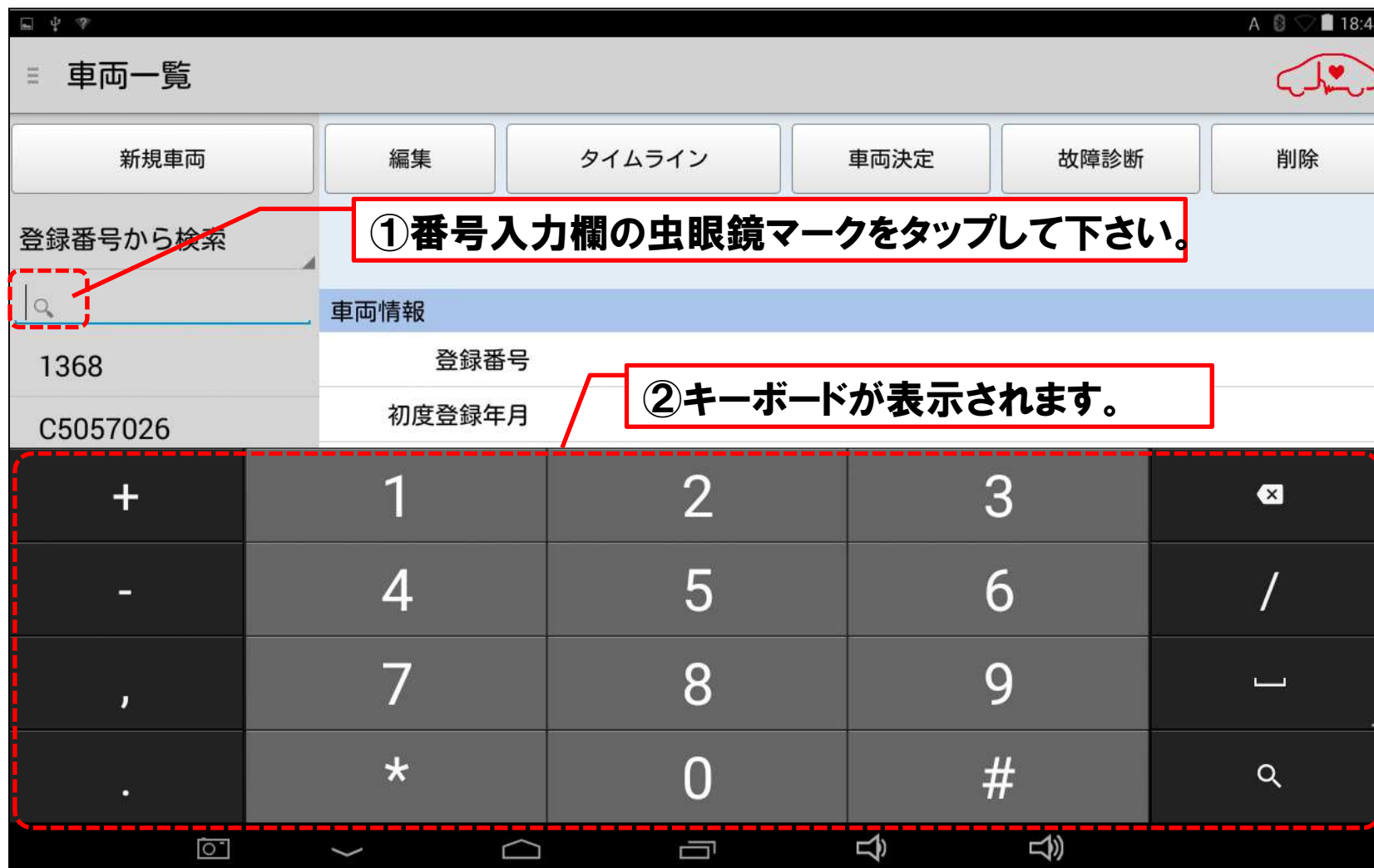
② 設定ボタンの下に選択肢が表示されます。「登録番号」から検索をタップして下さい。

登録番号	初度登録年月	メーカー	車種	車台番号	型式	原動機型式	燃料の種類	型式指定番号
横浜200あ151								
横浜200か1286								
横浜300わ5603								
横浜300わ5607								
横浜301の5163								
横浜480<1301								
横浜580は1240								
横浜800せ5312								

### 3. データの再表示

#### 手順4-1 車両情報の選択/登録番号から

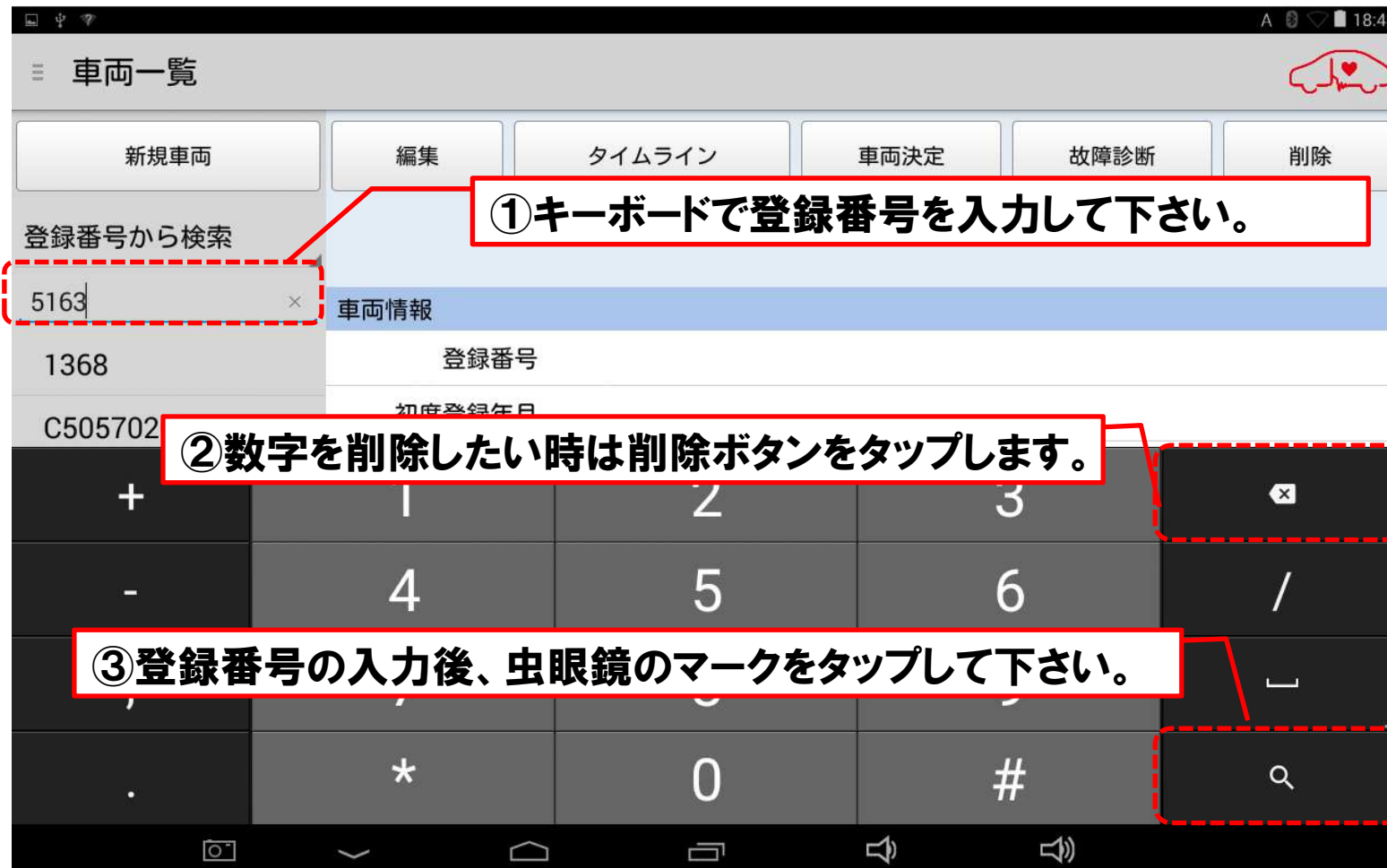
(2) 番号入力欄の虫眼鏡マークをタップし、キーボードを表示させます。



### 3. データの再表示

#### 手順1 車両情報の選択/登録番号から

(3) キーボードで保存データを関連付けしたい「車両情報」の登録番号を入力し、最後にキーボードの虫眼鏡のマークをタップします。



### 3. データの再表示

#### 手順1 車両情報の選択/登録番号から

(3)画面左に該当する「車両情報」の登録番号が表示されます。登録番号を表示すると、「車両情報」が表示されます。



### 3. データの再表示

## 手順2:タイムラインの実行

車両情報が表示されましたら、「タイムライン」をタップして下さい。



### 3. データの再表示

#### 手順3:タイムラインの表示

「タイムライン」が表示され、保存データの一覧が表示されます。

タイムライン

検索条件

表示イベント： 全てのイベント

検索対象： 登録番号

横浜301の5163

タイムライン

2016/06/18 18:21 故障診断データ(DTC)	
マツダ	RX-8
横浜301の5163	SE3P-113113

詳細表示

2016/06/18 18:19 故障診断データ(DTC)	
マツダ	RX-8
横浜301の5163	SE3P-113113

詳細表示



### 3. データの再表示

手順3:タイムラインの表示  
各データの右下の「詳細表示」をタップします。

①リストは上下にスクロール可能です。再表示させたいデータを選択して下さい。

タイムライン	マツダ	RX-8
2016/06/18 18:21 故障診断データ(DTC)	横浜301の5163	SE3P-113113
2016/06/18 18:19 故障診断データ(DTC)	横浜301の5163	RX-8

②再表示させたいデータの「詳細表示」をタップします。

### 3. データの再表示

#### 手順4:データの再表示

保存されたデータが再表示されます。タイムラインに戻る時は画面下の戻るボタンをタップして下さい。



## 4. CSVデータの作成

**手順1:保存したデータモニタの再表示**  
25ページから32ページに掲載している手順で、保存したデータモニタを再表示させて下さい。

項目	値	単位	最小値	平均値	最大値
<input type="checkbox"/> エンジン回転数	0	rpm	0	0	0
<input type="checkbox"/> I/F 70- センサ B1	0.35	V	0.34	0.34	0.35
<input type="checkbox"/> 燃料噴射リョウ	6.9	msec	6.9	6.9	6.9
<input type="checkbox"/> クラネヒ 検イ B1	100	%	100	100	100
<input type="checkbox"/> スイッチ センサ	84	°C	84	84	84
<input type="checkbox"/> O2センサ1 B1	0.00	V	0.00	0.00	0.00
<input type="checkbox"/> O2センサ2 B1	0.28	V	0.28	0.28	0.28
<input type="checkbox"/> O2センサ1 モニタ B1	LEAN		-	-	-
<input type="checkbox"/> O2センサ2 モニタ B1	LEAN		-	-	-
<input type="checkbox"/> シャフト センサ	0	km/h	0	0	0
<input type="checkbox"/> バッテリー電圧	12.1	V	12.1	12.1	12.1
<input type="checkbox"/> アクセル センサ 1	0.76	V	0.76	0.76	0.76
<input type="checkbox"/> アクセル センサ 2	0.77	V	0.77	0.77	0.77
<input type="checkbox"/> スロットル センサ1 B1	0.79	V	0.79	0.79	0.79
<input type="checkbox"/> スロットル センサ2 B1	0.81	V	0.81	0.81	0.81
<input type="checkbox"/> キュウキオン センサ	43	°C	43	43	44

## 4. CSVデータの作成

### 手順2:メニューの表示

画面の右側に指を当てて、右から左にずらしてください。メニューが表示されます。



1点カーソル 値選択 値1 ●カーソルスクロール ○グラフスクロール

項目	値	単位	最小値	平均値	最大値
<input type="checkbox"/> エンジン回転数	0	rpm	0	0	0
<input type="checkbox"/> I/F 70- センサ B1	0.35	V	0.34	0.34	0.35
<input type="checkbox"/> 軸圧力センサ	6.9	msec	6.9	6.9	6.9
<input type="checkbox"/> クラネヒ 検出 B1	100	%	100	100	100
<input type="checkbox"/> スイッチセンサ	84	°C	84	84	84
<input type="checkbox"/> O2センサ1 B1	0.00	V	0.00	0.00	0.00
<input type="checkbox"/> O2センサ2 B1	0.28	V	0.28	0.28	0.28
<input type="checkbox"/> O2センサ1 モニタ B1	LEAN		-	-	-
<input type="checkbox"/> O2センサ2 モニタ B1	LEAN		-	-	-
<input type="checkbox"/> シャックセンサ	0	km/h	0	0	0
<input type="checkbox"/> バッテリー電圧	12.1	V	12.1	12.1	12.1
<input type="checkbox"/> アクセルセンサ 1	0.76	V	0.76	0.76	0.76
<input type="checkbox"/> アクセルセンサ 2	0.77	V	0.77	0.77	0.77
<input type="checkbox"/> スロットルセンサ1 B1	0.79	V	0.79	0.79	0.79
<input type="checkbox"/> スロットルセンサ2 B1	0.81	V	0.81	0.81	0.81
<input type="checkbox"/> キュウキオンセンサ	43	°C	43	43	44

カーソル位置 1 / 4 サンプル開始から 6.74 sec

## 4. CSVデータの作成

### 手順3: CSV出力

右側に表示されたメニュー上の「CSV出力」をタップして下さい。

スクリーンショットを保存中...

1点カーソル 値選択 値1

項目	値	単位
<input type="checkbox"/> エンジン回転数	0	rpm
<input type="checkbox"/> I/Fセンサー B1	0.35	V
<input type="checkbox"/> 燃料圧センサー	6.9	msec
<input type="checkbox"/> クラネヒルヒ B1	100	%
<input type="checkbox"/> スイッチセンサー	84	°C
<input type="checkbox"/> O2センサー1 B1	0.00	V
<input type="checkbox"/> O2センサー2 B1	0.28	V
<input type="checkbox"/> O2センサー1 モニタ B1	LEAN	
<input type="checkbox"/> O2センサー2 モニタ B1	LEAN	
<input type="checkbox"/> シャフトセンサー	0	km/h
<input type="checkbox"/> バッテリー電圧	12.1	V
<input type="checkbox"/> アクセルセンサー 1	0.76	V
<input type="checkbox"/> アクセルセンサー 2	0.77	V
<input type="checkbox"/> スロットルセンサー1 B1	0.79	V
<input type="checkbox"/> スロットルセンサー2 B1	0.81	V
<input type="checkbox"/> キュウキオンセンサー	43	°C

メニュー項目:

- ファイル
  - 故障診断保存データを開く
  - 故障診断データ比較結果を開く
  - 保存
    - CSV出力**
- 比較
- 数値
- グラフ
- 選択
- 戻る
- 印刷
- 終了

カーソル位置 1/4

## 4. CSVデータの作成

### 手順4: CSVファイルの保存

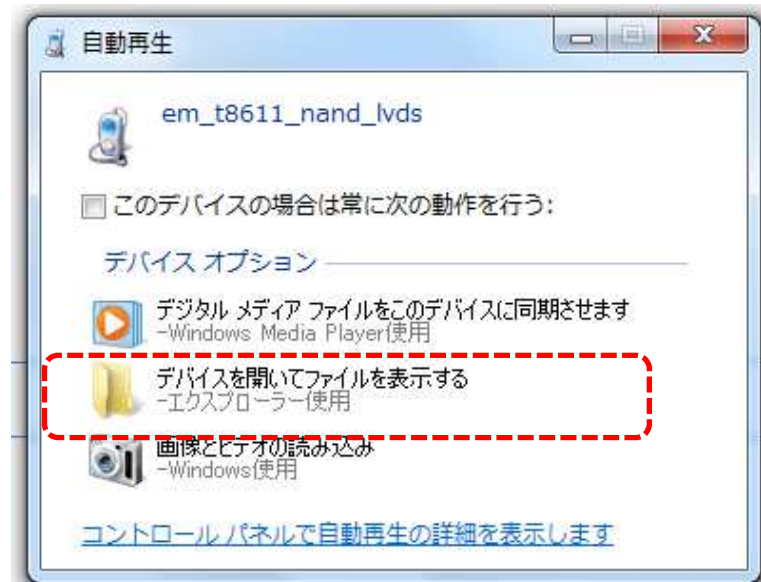
CSV形式でデータが保存されます。OKをタップして下さい。



## 4. CSVデータの作成

### 手順4: タブレットからのCSVファイル取り出し

- ① 付属のUSBケーブルを使用して、タブレットとPCを接続して下さい。
- ② パソコンの画面上に「自動再生」が表示されます。「デバイスを開いてファイルを表示する」にカーソルを合わせてクリックして下さい。



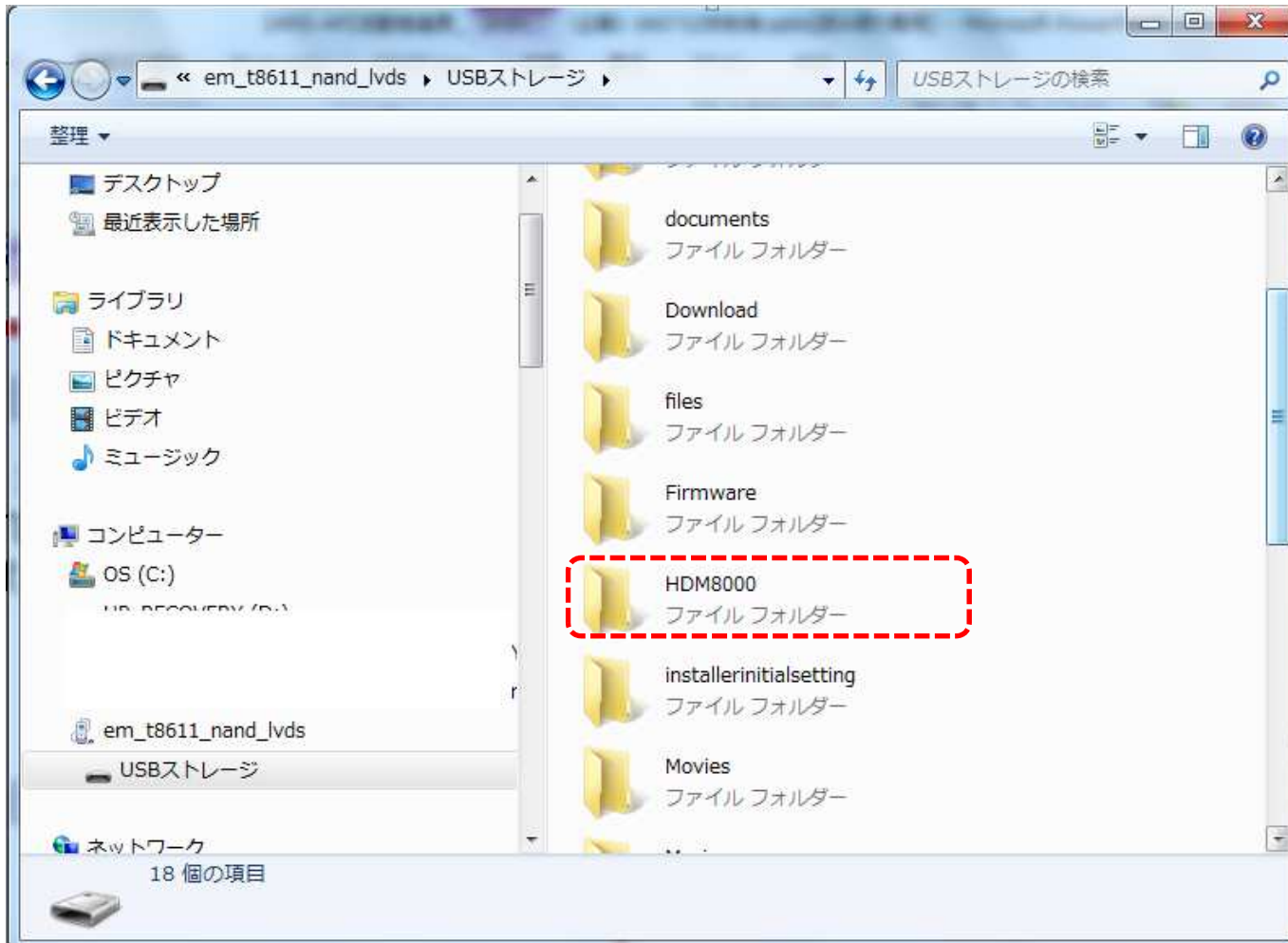
- ③ 次に表示される、USBストレージをクリックして下さい。



## 4. CSVデータの作成

### 手順4: タブレットからのCSVファイル取り出し

④各フォルダが表示されます。「HDM8000」をクリックして下さい。





## 4. CSVデータの作成

### 手順4: タブレットからのCSVファイル取り出し

⑤ 保存したCSVファイルが表示されます。適宜、PCに取り出して下さい。

